

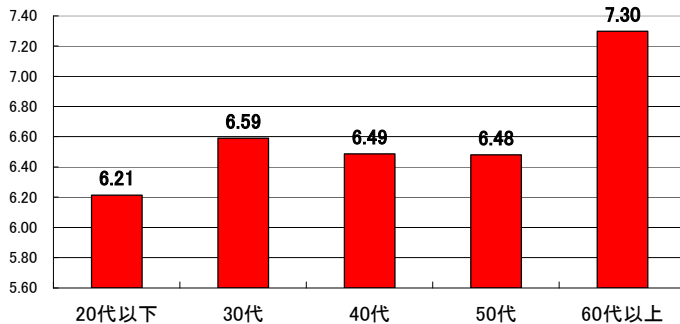


主婦・OL2000人に聞いた、自分と社会の“幸福度”調査結果 社会の幸福度編 ～半数以上が「日本の社会は幸福でない」と回答～ 若い世代が幸せを感じにくい国ニッポン

株式会社サンケイリビング新聞社(所在地:東京都千代田区、代表取締役社長:内堀真澄)では、2012年2月に主婦とOLを対象に“自分と日本の社会の幸福度”についてのWebアンケートを行い、2006人から回答があった。集計の結果、個人の幸福度(満たされて幸せだと感じる度合い)は比較的高いのに対し、半数以上が日本の社会は「幸福でない」と評価していることがわかった。

■個人の総合的な幸福度(平均)がもっとも高いのは60代以上、もっとも低いのは20代以下

(グラフ1) 総合的な幸福度(年代平均)

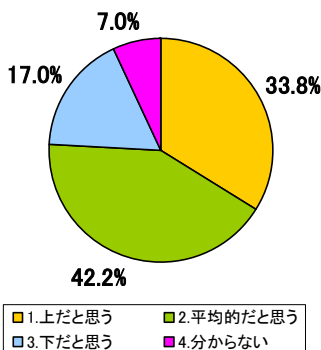


自分の総合的な幸福度を聞いたところ、全体の平均は10点満点のうちの6.58だった。

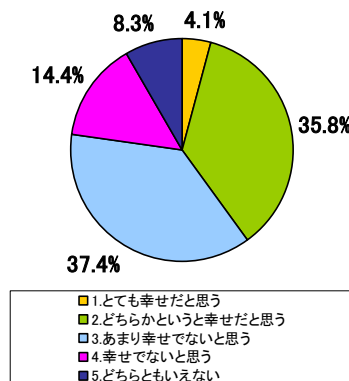
年代別に見るとグラフ1の通り。60代以上は幸福度が他世代に比べ高く、7.30。逆に最も低いのは20代以下で6.21。若者が幸せを感じにくい傾向がある。

自分の幸福度を世の中の平均(想定)と比較すると(グラフ2)、「平均より上」と感じる人は33.8%、「平均的」という人は42.2%。合計76.0%が「自分是人並みか、それ以上に幸福」と考えていることがわかる。

(グラフ2) 総合的な幸福度は平均より上か?



(グラフ3) 今の日本の社会は幸せだと思うか?



■日本の社会は「幸せでない」と回答した人は半数を超えている

個人を取り巻く「日本の社会は幸せかどうか」という設問に対しては、「あまり幸せでない」という回答が最も多く、全体の37.4%。「幸せでない」14.4%と合計すると51.8%で、「幸せでない」が半数以上に(グラフ3)。

一方で、「どちらかという幸せ」という人は35.8%で、「とても幸せ」はわずか4.1%。個人としては“そこそこ幸せ”だが、社会は“なんとなく不幸せ”...そんな世の中のムードをあらわす結果となった。

上記の回答の理由を自由に書いてもらったところ、日本社会を「幸せ」と答えた人は、貧困や戦争のある国と比較する傾向が。「幸せでない」と答えた人の多くは将来の不安や政治不信を理由に挙げた。

※コメント例

- 【とても幸せ】 世界でみると日本は平和であり、先進国であり、幸せに暮らせる国(26歳)
- 【どちらかという幸せ】 戦争や紛争などで死者が出たり悲しい思いをしたりする人がいないから(32歳)
- 【あまり幸せでない】 経済が不安定で老後が心配(45歳) / 原発事故問題、年金問題、政治不信など(55歳)
- 【幸せでない】 政治に不信感を持っています(61歳)

■10年後の幸せな社会のための、最優先事項は「平和」、次いで「年金問題」

10年後に、幸福な社会を実現するために大切だと思うことを、まず5つまでの複数回答で、続いて最も大切なことをひとつだけ、選択肢から選んでもらった。

(表1)

10年後の幸せな社会実現のために大切だと思うこと (複数回答 5つまで)	
1	年金制度が刷新され、将来の経済的不安があまりない
2	戦争やテロがなく平和である
3	お年寄りへのケアや介護がしっかり支えられている
4	景気が回復し、みんなが仕事に就きやすい
5	地震や台風などの災害への備え、対策がしっかりしている
6	病気や障害へのケアやサポートが充実している
7	子供がのびのびと育つことができる
8	治安がよく、事件や事故が減少している
9	景気が回復し、所得が上がっている
10	出産や子育てがしっかり支えられている

(表2)

10年後の幸せな社会実現のためにもっとも大切だと思うこと (1つだけ)	
1	戦争やテロがなく平和である
2	年金制度が刷新され、将来の経済的不安があまりない
3	景気が回復し、みんなが仕事に就きやすい
4	子供がのびのびと育つことができる
5	景気が回復し、所得が上がっている
6	治安がよく、事件や事故が減少している
7	政府や政治が国民から十分に信頼されている
8	地震や台風などの災害への備え、対策がしっかりしている
9	景気が回復し、貧富の格差が少なくなっている
10	病気や障害へのケアやサポートが充実している

表1(複数選択)ではすべての年代で「年金制度が刷新され、将来の経済的不安があまりない」が1位に選ばれた。

ところが、表2(1つだけ)では、すべての年代で「戦争やテロがなく平和」が1位となり、「年金制度～」は2位に下がった。

幸せな社会の実現は「平和があってこそ」という認識が持たれていることがわかる。

また、表1(複数選択)では、10位以内に福祉関連(高齢者ケアや病気・障害へのケア・子育て支援)や、安全/安心関連(災害対策・治安)の項目が挙がった。

年代別に見ると、「お年寄りへのケア・介護」は60代以上で2位、50代で3位。「子どもがのびのび育つ」が20代以下と30代で3位など、年代によって順位が異なる項目も。

■景気関連の3項目すべてが10位以内

表2(1つだけ)では、より優先順位の高い項目が洗い出された。

この結果、「お年寄りへのケア・介護」や「出産・子育てサポート」などの特定の年代が支持する項目が順位を下げた。

代わりに伸びたのは「景気回復」で、3項目すべてが10位以内に。

「景気が回復し、みんなが仕事に就きやすい」(4位→3位)、「～所得が上がっている」(9位→5位)、「～貧富の格差が少なくなる」(13位→9位)といずれも順位が上がり、幸福の要素としての「景気」「経済」の優先度は高い。

■もっとも大切なひとつを選ぶと、「政府や政治への信頼」が7位にランクイン

「政府や政治が国民から十分に信頼されている」についても、表1(複数選択)では15位だが、表2(1つだけ)では7位と、大幅に順位が上がった。「政治の信頼回復」が、10年先の日本にとってプライオリティの高い課題として考えられていることがわかる。

* 本データの詳細はリビング新聞グループ「リビング暮らしHOW研究所」のホームページで公開中。 <http://www.kurashihow.co.jp/>

* 本データの無断転載を禁じます。転載する場合は下記 コーポレートコミュニケーション室までご一報ください

[調査概要] 全国を対象とした Web アンケート 合計有効回答数: 2006

①主婦対象の Web サイト「えるこみ」上のアンケート 有効回答数: 1568 期間: 2012年2月16日～22日

②OL対象の Web サイト「citywave」上のアンケート 有効回答数: 438 期間: 2012年2月28日～3月2日

※一部異なる設問あり

[回答者の年代] 20代以下 9%、30代 34%、40代 31%、50代 16%、60代以上 10%

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社サンケイリビング新聞社 コーポレートコミュニケーション室 岸野

Tel: 03-5216-9222 Fax: 03-5216-9248 E-mail: cc@sankeiliving.co.jp

